

## 第 22 章 ラオスの主要産業の動向と AFTA 及び FTA の影響

### 1. 主要産業

ラオスの GDP 構成比を同程度の経済発展水準にある他の CLMV 及び先行国としてのタイと比較すると、図表 22-1 のようになる。CLMV のいずれの国もそのほとんどが農業である一次産業の割合がタイと比べると高い。特にカンボジアとミャンマーが 30% 台と高いのに対して、ラオスは 26%、ベトナムは 4 カ国の中で最も低く 20% である。

工業化の程度を表す二次産業の割合は、先行国であるタイとベトナムがほぼ同じ約 40% に達しているが、製造業だけに限るとタイが 29% と他の国をはるかに上回っており、GMS の中で先頭を走る国の姿を見せている。ベトナムの場合、二次産業の割合が高いのは、石油を産出することから鉱業の割合が 12% と高い値となっているためである。ラオスも 2000 年代前半から銅・金の輸出国となり、二次産業に占める鉱業の割合が製造業と同じ 10% 台を占めるが、製造業の割合だけを見ると、他の国に比べると極めて低い割合しか占めておらず、「工業化」といった場合、ラオスは CLMV の中で最も遅れた水準にある。製造業の中では縫製業が最大の企業数、雇用者数を有する。

現段階でラオスの主な産業を挙げると、農業、鉱業、縫製業ということになるだろう。

図表 22-1 CLMV の産業構造 (GDP 構成、2012 年)

	(%)				
	ラオス	カンボジア	ミャンマー	ベトナム	タイ(p)
<b>一次産業</b>	<b>26.0</b>	<b>35.6</b>	<b>30.5</b>	<b>19.7</b>	<b>11.1</b>
農牧業	21.4	} n.a	} n.a	15.3	10.2
林業	1.6			0.6	n.a.
漁業	3.0			3.8	0.8
<b>二次産業</b>	<b>31.2</b>	<b>24.3</b>	<b>32.1</b>	<b>38.6</b>	<b>38.3</b>
鉱業	10.0	0.8	6.1	11.9	3.7
製造業	10.3	16.0	19.9	17.4	29.1
電気・水道	4.2	0.6	1.2	3.7	2.7
建設業	6.7	6.9	4.9	5.6	2.8
<b>三次産業</b>	<b>37.1</b>	<b>40.1</b>	<b>37.5</b>	<b>41.7</b>	<b>50.6</b>
商業	19.1	14.5	19.4	13.1	14.5
ホテル・レストラン	0.7	n.a.	n.a.	3.9	3.4
運輸・倉庫・通信	4.4	8.0	13.3	3.8	6.6
金融	3.6	7.7	0.2	5.5	5.9
不動産・ビジネスサービス	2.9	n.a.	n.a.	5.4	6.8
その他サービス	6.4	9.9	4.7	10.0	13.4
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(注) タイの 2012 年のデータは推計値。

n.a.: 統計上、内訳が明記されておらず、他項目に含まれる。

(出所) ラオスとベトナムはそれぞれの国の統計局。カンボジアとミャンマーは ADB、タイは NESDB。

## 2. 農業

農業は GDP 比でも、労働人口でもラオス最大の産業である。すなわち、農牧業は GDP の 21% (2012 年)、労働人口の 72% (2010 年) を占めている。ラオスの農業は稲作を基盤としており、水田稲作と焼畑稲作の二種類の栽培が行われている。水田稲作はメコン河とその支流の流域が形成する谷底や盆地などで、焼畑稲作は国土の 85% を占める山地の傾斜地で行われている。

耕作面積の小さな自給的な生産が中心であり、雨季作を基本とし、天水依存がほとんどであるため、水稻栽培及び山間部での焼畑による陸稲栽培は稲の生育期間中の雨量によって生産量は大きく左右される (図表 22-2)。一方、ラオスは 1999 年にコメの自給を達成したと発表している。

図表 22-2 主な農産物の生産量の推移

(単位：万トン)

	2007	2008	2009	2010	2011
コメ (粳)	271	297	314	307	307
さとうきび	32	42	43	82	122
とうもろこし	69	111	113	102	110
キャッサバ	23	26	15	50	74

(出所) 農林水産省ホームページ (原典は FAO)

ラオスの主な商品作物はコーヒーととうもろこしであり、コーヒーは 2011 年から 2012 年にかけて日本がラオスから輸入している第 1 位品目であった<sup>44</sup> (図表 22-3)。コーヒーはラオス南部のサラワン県、チャンパサック県、セコン県にまたがるポロベン高原で栽培されている。コーヒーの栽培はベトナムと同じく、フランスの植民地時代にもたらされたもので、ポロベン高原の麓にはラオスを代表する民間企業であり、ダオ・コーヒーのブランドでコーヒーを生産しているダオファン社の立派な工場がある。また、最近ではベトナム資本がコーヒー農園の経営に乗り出している。

ポロベン高原は標高 1,100 ~ 1,200m の高原で、常に雲がかかっており、年間雨量 3,000mm 以上の豊富な水資源を擁している上、最低気温 10、最高気温 30 と冷涼な気候で、年間を通して野菜の栽培が可能である。そのため、コーヒーの他、キャベツ、じゃがいも、しょうが、とうもろこし、トマト、きゅうりなどの高原野菜の産地となっており、キャベツをはじめとする新鮮な野菜は毎日タイに輸出されている。ポロベン高原で栽培される野菜類は有機栽培であるため、高値で取引されている。

このポロベン高原では、2010 年に、日本の製薬メーカーであるツムラが現地法人「Lao Tsumura Co. Ltd.」を設立、漢方薬の材料である桂皮 (シナモン) やしょうがを栽培している。

<sup>44</sup> 2013 年になってラオスからの最大の輸入品は衣類・同付属品に変わった (図表 5-2 参照)。

図表 22-3 農作物の輸出額（2010年）

	百万ドル	シェア（％）
コーヒー豆	33.0	42.9
とうもろこし	26.0	33.8
ごま	3.0	3.9
果実調製品	1.0	1.3
果実	0.7	0.9
その他	13.3	17.2
総額	77.0	100.0

（出所）農林水産省ホームページ（原典はFAO）



（キャベツ満載のトラック）



（コーヒー豆の天日干し）



（乾季の水田風景：2013年12月）

### 3. 鉱業

鉱業は 2012 年の GDP の 10%、輸出額の 37%を占めるラオスを代表する産業である。2003 年にセボン銅・金鉱山が生産を始めて以来、ラオスは銅及び金の輸出国となり、ラオスにおける鉱業開発が注目されるようになった。

2012 年現在の主な鉱物資源の埋蔵量は図表 22-4 の通りであり、政府は鉱物資源開発を優先課題として内外資の参加を奨励してきたが、最近になって、多くの開発ライセンス取得者が投機的な目的でライセンスを取得し、高く転売するなどの動きがあるところから、投資審査の一時停止（モラトリアム）を行うようになった。図表 22-5 は最近の鉱業政策の動向をまとめたものである。

図表 22-4 主な鉱物資源の埋蔵量

	埋蔵量（千トン）
カリ	326,197
ボーキサイト	442,577
亜炭・褐炭	384,532
銅鉱石（品位 0.5～1%）	152,623
金（0.56～3.43g/T）	44,403
石灰岩（CaO > 50%）	1,708,147
スズ	32,439

（出所）鉱山エネルギー省鉱山局

（JOGMEC 主催「ラオス鉱業投資セミナー」（2012 年 3 月 16 日）資料）

図表 22-5 最近の鉱業政策

1997	鉱業法公布
2000	環境アセスメント規則
2003	セボン鉱山稼働
2007	プーカム鉱山稼働
2008/12	改正鉱業法成立
2009/9	鉱業投資審査の一時停止（モラトリアム）
2011/8	天然資源環境省設立（概査、探査、プレ F/S までを所管）
2012/4	改正鉱業法施行
2012/5	鉱業コンセッション審査の一時停止
2012/6	首相令（No.13/PM）発布：2015 年 12 月まで新規投資事業の審査及び許可を一時停止する（既存事業は契約に則って実施される）

（出所）五十嵐吉昭「ベトナム・ラオスにおける最近の鉱業政策動向について」平成 24 年 11 月 22 日（JOGMEC、平成 24 年度第 8 回金属資源成果発表会資料）

2012 年初め時点で 121 社の内外企業が鉱物資源の探査・開発プロジェクト 194 プロジェクトを実施している<sup>45</sup>。生産を行っている鉱山は 135 あるが、それらのうち主な鉱山を図表

<sup>45</sup> JFE テクノリサーチ株式会社「ラオスにおける鉱業事情について」2012 年 3 月 16 日。2012 年 3 月に 290 プロジェクトという報告もある（エネルギー工業省、鉱業局）

22-6 に示す。これらの鉱山が産出する各鉱物の生産量の推移は図表 22-7 の通り。これらの他、まだ生産段階には至っていないが、カナダの Amanta Resources が 2 件( Luang Namtha と OudomXai ) の銅・金鉱山開発、中国の Chinalco Yunnan Copper Resources 社が北部で銅・銀鉱山の開発を行っている。日本企業では、双日と日鉄鉱業が 2009 年 10 月に Moune 地区の銅鉱床探鉱権を取得し探鉱活動を、三井物産が 2010 月に Rio Tinto と共同でラオス南部でポーキサイトの探鉱を行っている<sup>46</sup>。

図表 22-6 主要 3 鉱山

	権益所有企業	鉱物	生産量 (2012)
Sepon	Minmetals Resources Ltd (中国、90%) ラオス政府(10%)	銅(SxEw カソード) 金(ドーレ) 銀(ドーレ)	86,295t 70,275oz 33,311oz
Phu Kham Copper-Gold	PanAust Ltd(豪、90%) ラオス政府(10%)	銅(精鉱中含量) 金(精鉱中含量) 銀(精鉱中含量)	63,285t 59,516oz 469,945oz
Ban Houayxai Gold-Silver <sup>(注)</sup>	同上	金(ドーレ) 銀(ドーレ)	76,449oz 146,742oz

(注) Ban Houayxai Gold-Silver 鉱山は 2012 年 4 月に開山した。

(出所) JOGMEC 「世界の鉱業の趨勢 2013」ラオス(原典は World Metal Statistics Yearbook)

図表 22-7 鉱産物の生産量の推移

	2010	2011	2012
銅(千トン)	132.0	138.8	149.6
亜鉛(千トン)	3.0	3.0	3.0
スズ(千トン)	0.6	1.2	0.8
金(トン)	5.1	4.1	6.4

(出所) JOGMEC 「世界の鉱業の趨勢 2013」ラオス(原典は World Metal Statistics Yearbook)

#### 4. 縫製業

縫製業はラオスの製造業の中で最大の企業数と雇用数を有しており、輸出産業でもあることから、代表的な産業となっている。

2011 年現在、ラオスにはおよそ 110 の縫製工場があり、約 3 万人の主に若い女性労働者を雇用している<sup>47</sup>。工場のうちの 50 社は輸出志向で、縫製業全生産品の 75%以上が輸出向けであり、輸出額は 2 億ドルに及ぶ。2004 年末に WTO が ATC 繊維協定を廃止したことに伴い、2005 年から繊維貿易は自由化され、ラオスのように中小企業がほとんどである繊維産業の行方が心配されたが、その後もラオスの繊維産業は成長を続けてきた(図表 22-8)。

<sup>46</sup> 出資比率は、三井物産 30%、Rio Tinto 70%。

<sup>47</sup> <http://apparelresource.asia/news/laos>

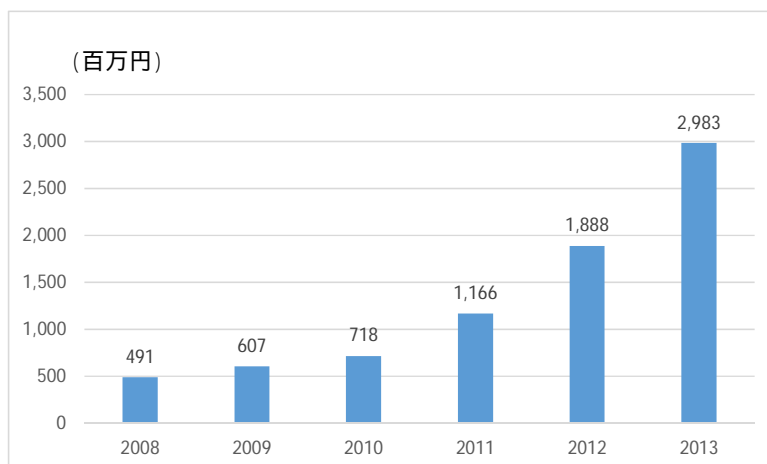
図表 22-8 衣料品輸出額・輸出点数及び総輸出に占める割合の推移  
(百万ドル/百万点)



(出所) World Bank, “Lao PDR Labour Standards and Productivity in the Garments Export Sector”, July 2012

ラオス製の衣料品の輸出先は、75%がEU、17%が米国、日本とカナダに3%ずつという内訳になっている。EU市場が中心となっている理由は、一般特恵関税制度(GSP)による免税制度の存在と、ラオスの縫製業が小規模であり、米国が求める大量注文に応じることが出来ないため、とされている。衣料品とその付属品は2013年の日本のラオスからの輸入商品の中で初めて第1位となったが、その背景には第5章でみたようなタイにおける賃金上昇に伴いラオスに工場を移転したり、分工場を設立した日本の衣料品メーカーの存在がある。図表 22-9 は日本のラオスからの衣料品・その付属品の輸入額の推移を表している。2008年から2013年まで、同輸入額は年平均伸び率43%という高い割合で伸びてきた。

図表 22-9 日本のラオスからの衣料品輸入額の推移



(出所) 財務省ホームページより作成

ラオスの縫製業の将来を考えると、課題が多い。日系縫製業の話では離職率が1カ月に8～10%と高く、生産性が上がらない、という問題がある。ラオス縫製業協会（ALGI：Association of the Lao Garment Industry）も「新世紀の縫製業、ラオス縫製会社は生き残れるか？」と題したセミナー<sup>48</sup>において、労働力不足、キープ高、最低賃金の上昇の3点を課題として挙げる一方で、2015年までに労働者を現在の2倍の6万人に増やし、輸出を倍増するという目標を掲げた。2015年に成立するAECもラオスの縫製業にとっては競争の激化を意味しているが、雇用確保のために賃金を上げると競争力が失われる、というジレンマにどう対処するかが、ラオスの縫製業の中期的な課題となるだろう。

特に最近のSEZの整備とそこに入居する機械などの組立加工産業が、多くの労働者を雇用することになるので、労働力も機械産業にシフトし、ラオスの輸出構造も変わってくるものと考えられる<sup>49</sup>。そして、緊急に必要とされているのは労働力の確保とともに、労働者の教育・訓練であり、今後の工業化に備えた熟練労働者の育成である。

#### 雇用確保のための対策例

- 香港系企業 Trio Laos Export 社は作業着製造を専門とし、ラオス最大のアパレル縫製工場として 2,274 人を雇用している。労働者に優しい環境をつくることへの投資が功を奏し、労働者の離職率は著しく低く、労働者の子息らのための幼稚園や学校までも設立している。
- イタリアの Hi-Tech Laos Apparel 社は業務空間に冷房を入れ、毎年5セットの作業着を労働者に提供している（もっともそれを着る従業員は稀とのことであるが）。
- ビエンチャンに集中している工場に労働者を連れてくるのではなく、労働者の住んでいる農村部に工場を移転する（欧州商工会議所所長の提案）。

出所：<http://apparelresource.asia/news/laos>



（ビエンチャンの日系縫製工場）

<sup>48</sup> 2011年7月29日に、ALGIと貿易開発基金の共同で開催された（<http://laotimes.exblog.jp/15280310>）。

<sup>49</sup> 衣料品はラオスでは、鉱産物、木材・木製品、電力に次ぐ輸出商品である。

## 5. FTAの進捗状況

ラオスが現在締結している FTA あるいは地域貿易協定 (RTAs : Regional Trade Agreements) は図表 22-10 の通りである。近年、多くの国が多数国と 2 国間 FTA を締結しているが、ラオスの場合、これまでのところ 1997 年に加盟した ASEAN の枠組みで進められており、2 国間 FTA は 1991 年に発効したタイとの間の貿易協定 1 件である<sup>50</sup>。

タイとの貿易協定は、ラオスが ASEAN に加盟する前に締結されており、タイとは歴史的関係が深く、また言語・文化・宗教なども共有するラオスが最貧国の状況にあったことから、タイがラオスに「モノ」の輸入に関して最恵国待遇を与えることを謳っている。タイへの貿易依存度は、輸出の 32%、輸入の 62% (いずれも 2012 年) と依然として高く、本協定はラオスにとって有用なものとなっている。

図表 22-10 ラオスの自由貿易協定

		発効年月
ASEAN 自由貿易地域 (AFTA) ATIGA へ発展	自由貿易地域	1993/1
ASEAN・中国自由貿易協定 (ACFTA)	自由貿易協定	2004/1
ASEAN・韓国自由貿易協定	自由貿易協定	2007/6
ASEAN・日本包括的経済連携協定	自由貿易協定	2008/12
ASEAN・インド包括的経済協力枠組協定	自由貿易協定	2010/1
ASEAN・豪州・ニュージーランド自由貿易協定 (AANZFTA)	自由貿易協定	2010/1
ASEAN 物品貿易協定 (ATIGA)(旧 AFTA 形成のための共通効果特惠関税 (CEPT) 協定)	自由貿易協定	2010/1
ラオス・タイ貿易協定	特惠関税協定	1991/6
アジア太平洋貿易協定 (APTA) <sup>(注)</sup>	特惠貿易協定	1976/6
東アジア包括的経済連携協定 (CEPEA/ASEAN+6/RCEP)	自由貿易協定	交渉開始 合意
ASEAN・EU 自由貿易協定	自由貿易協定	交渉中
東アジア自由貿易協定 (EAFTA/ASEAN+3)	自由貿易協定	構想・提案段階

(注)WTO がラオスの地域貿易協定 (RTAs) として挙げている自由貿易協定であり、2006 年に韓国、インド、スリランカ、バングラデシュ、ラオスの参加で始まり、2002 年に中国が加わり、貿易協定に加えて、投資及びサービスに関する協定締結に向けた交渉が行われている。

(出所) JETRO、「世界と日本の FTA 一覧」2013 年 11 月他より作成

しかしながら、ラオスは 1997 年に ASEAN に加盟し、ASEAN の枠組みの中でタイを含む先行国とも貿易交渉に臨むようになった。AFTA 及び CEPT 協定では、ASEAN 先行加盟 6 カ国 (ASEAN6) は 2010 年に、ラオスを含む新規加盟 4 カ国 (CLMV) は 2015 年に

<sup>50</sup> ラオス工商業省 (MOIC : Ministry of Industry and Commerce) によると、ラオスは 2 国間貿易協定を、タイを含む 18 カ国 (アルゼンチン、ベラルーシ、ブルガリア、カンボジア、中国、インドネシア、インド、韓国、クウェート、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、フィリピン、ロシア、タイ、トルコ、米国及びベトナム) と結んでいる。



域内関税を撤廃することとなっていた。AFTA は 2008 年に見直され、より包括的な ASEAN 物品貿易協定 (ATIGA) として、AFTA に盛り込まれていなかった貿易円滑化や原産地規制、直接輸送 (積送規準) などを規定している。

AEC (ASEAN 経済共同体) はこうした流れの中であって、2003 年にその創設が決まった。そして、2007 年に ASEAN の法的根拠となる ASEAN 憲章が採択され、2009 年には AEC 設立、さらに政治・社会分野の一体化に向けた「ASEAN 共同体ロードマップ」<sup>51</sup>が発表された。

当該ロードマップによると、AEC は後発 4 カ国に配慮しつつも、単一市場・生産基地形成を目指すもので、域内では、モノ、サービス、投資、資本移動、熟練労働者の自由な移動を可能にする。

モノの域内貿易自由化では、関税引き下げ・撤廃だけでなく、非関税障壁の撤廃、関税手続きの共通化・簡素化などを目指す。

サービス貿易の自由化では、航空輸送、通信、保健及び観光、ロジスティックス、金融の自由化を目指す。

投資の自由化では、製造業、農林漁業、鉱業、サービス業の全ての分野で外国投資を ASEAN 域内に誘致するばかりでなく、域内での投資を活発化する。域内投資の促進に当たっては、ASEAN6 から CLMV への投資を促進する。そして、そのため、投資保証協定 (IGA: Investment Guarantee Agreement) を見直し、紛争調停メカニズムを導入するなど投資環境を整備する。

資本移動の自由化は、規制緩和を行い、すべての ASEAN メンバー国が自由化の恩恵を享受できるようにする。

熟練労働力の移動については、貿易及び投資活動を行っている ASEAN のプロフェッショナル、技術労働力の移動を自由化するが、そのためには、ASEAN 域内の大学をネットワーク化し、学生・教員の自由な交流を促し、職業訓練を行い、域内で労働市場の情報を共有できるようにする。

ロードマップが示すこれらの行動計画の中、後発国であるラオスにとってすぐに実現できる事項は限られている一方で、2015 年に迫った AEC の実現に向けて待った無しの状況にあることも確かである。2000 年代後半以降のラオスの高度成長は鉱業と水力発電によりもたらされたが、2015 年以降は外資主導の工業化を受け入れて、一層の発展を実現できるような環境整備が欠かせない。中・長期的には、ASEAN という単一市場化、単一生産基地化の中でラオスは立地面で陸上輸送の要であること、資源国であること、人口は少ないが若年層が今後しばらくは増え続ける、という特徴を活かした戦略が求められよう。

---

<sup>51</sup> ロードマップは「ASEAN 経済共同体」の他に、「ASEAN 政治・安全保障共同体」、「ASEAN 社会・文化共同体」のそれぞれの共同体形成に向けた取組みを示している。

## ひとくちメモ(19): 過熱する観光開発～世界遺産都市ルアンパバーン

ラオスを訪れる外国人観光客の数は、1994年にわずか1万6千人であったが、1995年にルアンパバーンの旧市街が世界遺産に登録され、1999年と2012年にラオス観光年として観光客を呼び込んだことから、2012年には333万人に達した。これに伴い、ホテルとゲストハウスの数も、それぞれ1994年の76軒と55軒から、2012年には468軒と1,562軒に増えている。

世界遺産都市であるルアンパバーンを訪れる観光客の増加に対応する形で、旧市街の建物の多くが改築、リノベーションされてホテルやレストラン、お土産物屋や旅行代理店となった。しかし、旧市街で広い敷地を持つ建物は限られるため、近年になってルアンパバーン県病院や堀に囲まれた刑務所までがリノベーションされ、高級リゾートに変貌した。

一時はルアンパバーン県庁まで、国際ホテルチェーンに貸し出されるという話が持ち上がった。UNESCOが、もし県庁がホテルになるのであれば、世界遺産登録を取り消すと声明を出すに至り、この件は立ち消えとなった。

ルアンパバーン観光の1つに早朝の托鉢があるが、観光客のもっとも多い年末年始には、観光客の方が托鉢する人々より多く、写真を撮ることなどが托鉢の妨げになっており、現地では日本語を含む6カ国語で伝統文化を尊重するよう観光客に呼びかけるパンフレットが作られたほどである。



ルアンパバーンの象徴、シェントーン寺